

黎明

題字は、校歌（玄閣掲額）より



令和4年 6月24日 (金)

輝け みんなが主役の西陵中

三日間の期末テストを終え、生徒たちは束の間の解放感を味わっているところだと思えます。とはいえ、夏休みまで残りほぼ一か月あります。一学期の学習の反省やまとめとともに、三年生にとって最後となる中体連三泗予選にむけて部活動についても、一日一日を大切に過ごしてほしいと思っています。

さて、本日午後は、梅雨の晴れ間に生徒会が中心となって「学校レク」を行いました。サイレントバースデーゲーム、人間指マス、令和でワッショイ（玉入れ）など工夫を凝らした種目が準備され、学年を超えて楽しむ姿が見られました。様子については、下記の学校ホームページをご覧ください。

生徒会が作成した本年度の学校スローガンは、「輝け みんなが主役の西陵中」です。先日（十四日）、校長室で完成の報告を受けました。黒字に明るく輝く文字と星のイラストとともに、「セリヨッピー」と名付けられたかわいいマスコットが描かれています。

決定に至った経緯についてたずねると、「一人一人が思いをしまい込まずに出し



合って、学校をよりよくしていきたい、という願いを託しました」という旨の答えが力強く返ってきました。

すばらしいスローガンを考えてくれたと思えます。一人一人が個性を発揮して輝けるよう、また、わからないことはわからない、違うと思ったら違うと、声に出して言えるたくましさも期待したいと思っています。

雨の日の多い季節を迎え

一九七六年九月、社会のT先生は授業の冒頭、いきなり伊勢湾付近の白地図を描き始めました。濃尾平野の北西部のちようど揖斐川と長良川に挟まれたあたりに印を入れると、「これなんや？」と質問しました。

関ヶ原か桶狭間かとも思いましたが少しずれています。だれも答えがわからず、沈黙してしまいました。すると、ただ一人、ふだんあまり発言の多くない友だちが「あんばちや！」と叫ぶと、先生は大きく頷かれました。

台風十七号による豪雨で長良川が決壊し、岐阜県安八郡安八町で甚大な被害が出たと、テレビや新聞が連日報じていました。「これがわからんようではな…」と先生が少し怒ったような声で言われたことが今も忘れられません。

今年も雨の日の多い季節を迎えています。昔は線状降水帯やゲリラ豪雨などありませんでした。視界がなくなるほどの豪雨や突然の道路遮断なども想定し、学校でも指導を進めたいと思います。安全な登下校や身を守るための備えを各自でも進めてください。

心眼で眺める美しき歌碑

校門手前の桜の木の隣に歌碑があります。「緋緘（ひおとし）の／＼を／＼つけて／太刀佩（は）きて／見ばやとぞ思う／山桜花」と刻まれています。緋緘の鎧とは、燃えるような赤の華麗な鎧のことで、歌意としては、身も心も引き締めて桜の花は見たいものだ、といったところでしょうか。



何年ごろに、どのような経緯で建てられたものかと気になり、校長室の資料を紐解いてみました。すると、昔のPTA広報誌に次のようなことが書かれていました。

：明治の文豪、落合直文の実に美しい歌碑である。歌もよし、石もよし、字もまたよし。：満開の桜の中で、生徒たちが、四月に堂々とこの校門をくぐってほしい、という親の願いで、昭和五十五年度のPTAの寄付によるものである。また、卒業の時には、入学の時と同じように、心を正し、身を正し、堂々とこの門を出て行ってほしい親の願いが含まれていることを忘れずに日々心の眼で眺めてほしいものである。：（一部略、原文ママ）

昭和の誇り高き文章に背筋がピンと伸びた思いがしました。この願いに込めるべく、「未来をたくましくきりひらく生徒の育成」に向け、一層努力を重ねる意を新たにしました。

親の願いはいつも変わりません。そういえば、落合直文の作で、「霜やけの／小さき手し／蜜柑むく／我が子しのぼゆ／風の寒さに」という短歌が小学校五年生の国語の教科書に載っています。

